

あしっ育成だより

29

立教 188 年 9 月 23 日発行
編集 / 天理教芦津大教会育成部

特集 ① こどもおぢばがえり

育成会員に聞く—こどもおぢばがえりへの取り組み—

② 学生会、青年会、女子青年の活動



《親のことば》

人を育てる手本をひながたに求めたとき、教祖はわれわれの先人先輩方に対して、言葉で教えるだけでなく、ご自身の行いで示され、繰り返し繰り返し教え導くことをなされたことに思い至ります。一度教えてそれで終わり、ということはありませんでした。こうして通ればよいのだと、自ら手本を示してくださったことでしょう。間違いは、何らかの形で指摘してくださったことでしょう。まさに、人を育て導く手本を、教祖ご自身が示してくださっているのです。

(立教 188 年 婦人会第107回総会 真柱様メッセージより)

①こどもおちばがえり

真夏のおちばに子供たちの笑顔溢れる

7月27日から8月3日まで、おちばで「こどもおちばがえり」が開催され、子供たちの笑顔と喜びで溢れました。

期間中は芦津団独自の夜の行事を実施。食堂では、「あしつ広場」でさまざまなミニゲームを、2階大広間では、今年も「お化け屋敷」を開催。1階事務所前では、学生会がかき氷、ポップコーンの販売を行い、大勢の子供たちで賑わいを見せました。



芦津からは、111 隊、少年会員 586 名(内、わかぎ 86 名、初参加者 171 名)育成会員 575 名、合わせて 1,161 名が帰参。そんな隊の中で2隊の育成会員に、今年のこどもおちばがえりへの取り組みや思いを聞きました。

☆育成会員に聞く—こどもおちばがえりへの取り組みを通して—

始良隊（鹿児島県始良市）

引率責任者 川畑正博・始良分教会長

【7/28～29】 少年会員 21 名 育成会員 10 名



—こどもおちばがえりに向けて、また繋がる活動として教会として取り組みだことや行っていることはありますか？

教会では、自分の特技を活かして、毎月「書道教室」を行っています。今年はそこから初参加の子が参加してくれました。また、「こども食堂」や、こどもおちばがえり前に「教会こども会」も行っています。地道な活動を続けてきたおかげで、こどもおちばがえりに繋がりました。



—お誘いや声掛けで心がけていたことや、工夫したことはありますか？

年祭活動仕上げの年の旬、「おちば帰りの推進」を心に、今年は今まで以上に、常に「おちばへ帰りましょう」とくり返し声を掛け続けてきました。やはり、日々のコツコツとした声掛けの積み重ねだと思います。

—その中で大変だったこと、苦労したところはあるですか？

教会からおちばが遠いこともあり、参加費（旅費）がかかります。何カ月も前に日程を決め、参加までに少しずつ積み立ててもらおうようお願いしています。また、交通手段もかなり前から検討し、マイクロバスも予約。今年はフェリーと飛行機に分かれて帰参しました。準備や手配は大変でしたが、皆に「どうしてもおちばに帰ってもらいたい」という思いを込めてつとめました。

—声掛けや帰参を通して喜べたことや、まつわるエピソードがあれば、教えてください。

今年は4名の初参加者がありました。その中、親の付き添いがなく初めての遠出となった子が参加してくれましたが、親御さんがすごく喜んでくれました。できるなら、今度はその親御さんも一緒に、おちば帰りができたらと思います。また、今年は初めて私の全兄弟姉妹、夫婦で子供を連れて参加できました。これも年祭活動仕上げの年として、皆揃っておちば帰りできたことが、とても嬉しかったです。

一これからの育成活動についての思いを聞かせてください。

今年は「教会こども会」で初めておつとめ練習を行いました。おつとめで鳴物などに触れる機会を増やしていき、いずれは「少年会総会」も行いたいです。それには、子供たちの世代がしっかりと教会に繋がるように、今後も既存の活動をできる限り、地道に続けていきたいです。さらには、子供たちには全員、おちばの学校に行ってもらいたいと思っています。



豊崎隊（大阪府大東市）【東津部属】

引率責任者 松井 修

【7/31～8/1】 少年会員 18名 育成会員10名

【8/3 日帰り】 少年会員 16名 育成会員10名



一こどもおちばがえりに向けて、また繋がる活動として教会として取り組んだことや行っていることはありますか？

教会では年2回、大きなイベントとして夏に「流しそうめん」と「夏祭り」、冬に「お餅つき」をしています。夏の「流しそうめん」は、こどもおちばがえりのお誘いの場として始めました。

一お誘いや声掛けで心がけていたことや、工夫したことはありますか？

毎年、日帰りで帰参していましたが、今年は遠方の信者さんが帰参されたので、それに合わせて詰所で宿泊することになり、子供のお友達などに「お泊まりして遊びに行かないか」とお誘いしたところ、思っている以上にたくさんの参加者が集まりました。



一その中で大変だったこと、苦労したところはありますか？

平日に宿泊で行くとなると参加できない子が出てきましたので、平日で行けなかった子のために、期間中最後の日曜日に、日帰りで帰参することにもしました。その際に、引率してくれる大人を探すのが大変でした。また帰参にあたっては、車の手配が大変で、乗れないので来れなかった子もいました。

一声掛けや帰参を通して喜べたことや、まつわるエピソードがあれば、教えてください。

自教会の団参として、初めての宿泊だったため、あまり参加者が集まらないかと思っていましたが、たくさんの子供たちの参加がありとても嬉しかったです。また宿泊、日帰りともに子供の親御さんも参加してくれて、初めておちばを感じてもらえたこともありがたく、喜ばせていただきました。私たち夫婦に、子供たちを預けていただける信用を得ていることも嬉しかったです。

一これからの育成活動についての思いを聞かせてください。

今後も教会でのイベント等は続けて行っていき、年2回より増やすことも考えています。わが子がいる間は子供を集めやすいですが、いなくなるとなかなか誘いにくくなると思います。宗教的に教会へ持続して来てもらえるのは難しいと思うので、お餅つきなどのイベントに参加してもらい、今参加してくれている子の子供が、こどもおちばがえりなどに参加してくれたら嬉しいですね。

仕事で色々な人と会いますが、『こどもおちばがえり』の知名度はすごいと再確認しています。子供の頃に参加したことがある人や、親に行ったらあかんと言われて参加できなかった人までいます。皆、教会に繋がっているわけではないですが、行った人は「楽しかった」思い出があり、私からではなく向こうからこどもおちばがえりの話をしてくれると、私のようなようぼくには、とても勇みになります。

参加してくれた子供たちが将来どこかで天理教の人と出会ったり、こどもおちばがえりの声が掛かった時に思い出してくれるように、活動を続けたいと思います！

教えと向き合い、友情を深めた夏

学生生徒修養会・高校の部 8/9～13

●おちばで「信仰の喜び」を味わう

立教188年「学生生徒修養会・高校の部」が、8月9日から13日にかけて、親里で開催され、お道につながる全国各地の高校生約800人が受講しました。

テーマは、「陽気ぐらしに必要なこと ～向き合うことの大切さ～」。さらに、学年ごとに「人と向き合う」（1年生）、「自分と向き合う」（2年生）、「神様と向き合う」（3年生）のサブテーマが設けられました。

受講生たちはこうしたテーマをもとに構成された「グループタイム」や「お話」などのプログラムに臨み、向き合うことの大切さを学ぶとともに、信仰の喜びを味わいました。また、「仲良くなろうタイム」など、学年ごとに交流する時間が持たれ、ゲームやグループワークを通じて仲間と友情を深めました。さらには宿舎で寝食を共にし、語り合うことで、同じ道を信仰する仲間をつくることができました。

最終日には、各学年で「私の宝物」と題した締めくくりのグループタイムがあり、受講生は5日間で得た気づきや今後の目標などを発表しました。閉会にあたって、本部学生担当委員会・清水慶政委員長は、「皆さんには、普段からおちばや教会に足を運んでお道の教えを学んでほしい。誰かが壁にぶつかったときには、そばで寄り添い支えてあげられるようなお互いであるよう、これからも心の成人を進めてもらいたい」と話されました。最後に、来年3月に「教祖140年祭 学生おちばがえり大会」が開催されることにふれ、「ぜひ大勢の仲間を誘っておちばに帰ってほしい」と一同に呼びかけられました。

●芦津からは5名が参加

芦津大教会からは受講者5名と、本部スタッフ1名が今年の学修に参加しました。

菊池七海さん（東大屋分教会）は、直前のこともおちばがえりで教会の団参の引率をしている時に、昨年まで参加していた大学生たちから、「楽しいから、参加した方がいい。絶対に損はない」などと強く勧められて、急遽参加を決めました。

「最初は不安だったけど、グループタイムや班対抗のゲームを通して、一緒の班になった仲間たちが、私が嬉しくなるような声をいっぱい掛けてくれました。初めて会った人ばかりなのに、本当に感動しました」と、おちばで出会った仲間との

絆ができたことが嬉しかったと、感想を述べてくれました。



芦津から参加した受講生

青年会芦津分会総会 女子青年の集い

若者たちが大教会に心を寄せて

6月29日、青年会芦津分会が総会を、芦津女子青年は集いを開催。多くの芦津に繋がる若者が大教会に集まり、親の声に耳を傾け、今後の躍進を誓い合いました。



青年会芦津分会総会には会員86名が参加。全員がおつとめ衣に身を包み、8交替でおつとめを勤めました。

式典では、青年会長・中山大亮様からのビデオメッセージを視聴。その後、大教会長様からの祝辞がありました。「教祖にお喜びいただくために、自分は何をすべきかを考えて、教祖140年祭を勇んでつとめてもらいたい。また教祖150年祭と立教200年の旬は、皆さん方の時代。その心積もりをもって先に進んでほしい」と、若者に対して大きな期待を述べられました。

続いて井筒敏成委員長が挨拶。本部の基本方針「心を澄ます毎日。～ほこりを減らし、誠を増やす～」について、「普段の心のあり方に目を向けて、自分にできる誠の行いを増やすよう意識することが大切」と語りかけました。

式典第二部では「対話」が行われ、会員同士が二人一組になって信仰について語り合いました。



女子青年の集いには、36名が参加しました。

青年会総会のおつとめで女鳴物を勤めた後、陽気ホールで式典。婦人会本部からのメッセージの後、井筒年子・芦津支部長のお話。「『教祖ならどうなさるか』という心を遣うと人生が好転し、必ず幸せな方向に進んでいく。この教えを自信をもって伝えてください」と期待を述べられました。

続いて、井筒たつえ委員長が挨拶。「心の向きを少し変えることで、つらいことがあっても、そこには親神様の思いがあると気付く。女子青年活動を通して、一緒に教えを深めていきたい」と、参加者に女子青年活動への参加を促しました。

伊藤百花さん（芦姫）による新入会員入会宣言の後、岩切さとよさん（四ツ山）、加世田もとよさん（大島）が感話を行い、自分にできるおたすけや、活動を通して感じたことなどを発表。その後、班に分かれて「サイコロトーク」で会員同士の親睦を深めました。

99th 天理教青年会総会

10.25(土)

式典 午後1時 本部中庭



【総会受付用
2次元コード】
参加される会員は
事前登録をお願い
します。

あの人のために おちばへ。

この総会に向け、青年会では「『たすかり』を心に、誰かのためにおちばへ帰る。」とのスローガンを掲げ、会員一人ひとりが、身上や事情を抱える人のたすかりを願っておちばへ帰ることを呼び掛け、その具体的な手立てとして、「おたすけ願」を活用しています。

この「おたすけ願」は、性別や年代を問わず、どなたでもご記入いただけます。回収した「おたすけ願」は、青年会本部に提出し、総会式典終了後、青年会長・中山大亮様を芯にお願いづとめを勤めさせていただきます。

青年会芦津分会は、この取り組みを通して、たすかりを願う多くの青年会員がおちばに帰り集うとともに、多くの方々にたすけ心が波及することを目指しています。

◇夏休みあしつ親子参拝◇

8月23日、毎年恒例の「夏休みあしつ親子参拝」を実施しました。子供に信仰の喜びを伝えるため、夏休みに家族揃って大教会の月次祭に参拝しようという提唱から始まった親子参拝に、教会子弟をはじめ大勢が、家族ぐるみで大教会月次祭に参拝しました。祭典後、参拝場で子供向けお下がり、食堂前では女子青年の協力を得て、かき氷を配りました。

夕づとめ後は、大教会長様を囲んでの会食。子供たちが喜ぶオードフル、さらには青年会や学生会が鉄板でお肉や焼きそばを焼き、食後にはかき氷を配りました。子供連れの家族が大勢参加し、笑顔溢れる賑やかな会食となりました。



① こどもおちばがえり

② 学生会、青年会、女子青年の活動

あしつ 育成だより 29

立教 188 年 9 月 23 日発行
編集 / 天理教芦津大教会育成部